コミュニティ・子育て拠点整備基本計画（案） に対する意見公募の結果

1　概要

（1）募集期間　　令和８年２月２０日～３月２１日

（2）意見提出者　　２１名　（意見総数　５６件）

2　いただいた意見への対応状況

分類	対応状況	意見数
賛同	計画案に対して同趣旨の意見、賛同いただいたもの	５件
参考	今後の施策や事業実施にあたり参考とさせていただくもの	５１件
修正	ご意見の趣旨を参考にして計画案を修正したもの	０件
合　計		５６件

3　ご意見とそれに対する市の考え方

○ご意見の内容により分類して掲載しております。

○ご意見について一部要約等を行っている場合があります。

（1）基本計画案に対して賛同をいただいたもの

No	いただいたご意見	分類	ご意見に対する市の考え方
1	私は、地域子育て支援拠点の運営・管理を行い、地域に根差した活動をしております。また、今年度開催されたプレーリーダー養成講座を受講しました。 こどもから高齢者まで、誰もが安心して集える交流拠点の新設は、地域社会の活性化に不可欠と強く感じています。異なる世代が交流する場は、社会性や共感性を育み、こどもの社会性発達、高齢者の生きがい創出、地域コミュニティの強化、子育て支援機能の強化にもつながると考えます。	賛同	いただいたご意見は、本計画への期待ととらえ、こどもの権利を尊重した遊び場となるよう、また、地域に開かれ、こどもから高齢者が集う居心地が良い場所となるよう、供用開始に向け、引き続き管理運営の検討を行うとともに、こどもの権利及びプレーパークについて、市民の方々に対する普及活動等を行ってまいります。

	こどものあそび場については、鶴岡は雪国だから、特に冬場や天候の悪い日の室内のあそびを求める声が多いですが、鶴岡市には子育て支援センターや児童館が多数あり、施設ごとに工夫を凝らした活動をし、子育ての相談もできます。ほんの少し足をのばせば、近隣の市町には屋内の遊び場もあります。 これからの鶴岡、こどもたちに必要なあそび場は基本計画（案）でも示されているように「プレーパーク」だと考えます。プレーリーダー養成講座を受講し、鶴岡にもぜひプレーパークが欲しい、プレーリーダーとして関わっていきたいと強く感じました。 こどもを危険から遠ざける、先回りして何でもやってあげ、最短距離で成長させることが保護者・大人の役割なのではなく、こどものあそぶ権利を保障することこそが、私たち大人の役割だと考えます。1989 年に国連で採択された「子どもの権利条約」の第 31 条に明記され、この権利は、子どもが心身ともに健康に成長するために非常に重要です。 18 歳未満のすべてのこどもを「権利を持つ主体」と位置付け、大人と同様に人権を保障し、成長過程における特別な保護や配慮を定めた国際条約です。日本も 1994 年にこの条約を批准しています。 自分で考え、判断し、自分の責任で自由に遊ぶことを積み重ねていくことのできるプレーパークは、社会情勢の急速な変化があり不透明な時代を生きて抜いていかなければならないこどもたちに必要な場所だと考えます。 こどものあそび場と若者・高齢者など様々な年代の地域の人たちが集う拠点が隣接してできることで、今までの人の流れも変わり、必要なときに助け合える「ゆるやかなつながり」を地域に生み出し、誰もが利用しやすい「地域に開かれた存在」となり、誰もが利用しやすくなると感じます。 1 人でも多くの子ども・若者たちが、鶴岡に生まれ育って良かった、将来も鶴岡で暮したいと思えるような拠点となるよう期待します。		

	この意見が、より良いコミュニティ・子育て拠点整備基本計画の実現に役立つことを願っております。		
2	本計画は、子育て世代や地域住民が交流できる拠点を整備するという点で、大変意義のある取り組みだと感じています。子どもから高齢者まで幅広い世代が利用できる施設として整備されることには期待しています。	賛同	いただいたご意見は、本計画への期待ととらえ、多様な世代が集い、交流できる拠点となるよう、努力してまいります。
3	プレーパークで子どもたちをいきいきと遊ばせたいです！ 家の近くに公園もあまりないので遊ぶ場所が増えたら嬉しいです。	賛同	いただいたご意見は、本計画への期待ととらえ、こどもたちが「いきいきと遊ぶことができる遊び場」となるよう、努力してまいります。
4	魅力ある子育て拠点施設の整備計画です。 少子化を考慮したコンパクトな施設計画、既存の児童館改修と併せた一体型の管理計画など概ね賛成です。	賛同	いただいたご意見は、本計画への期待ととらえ、計画に添った設計、運営となるよう、努力してまいります。
5	地域の方や、お年寄り、子育て中の方が集える場所、また、東根や、長井などにあるプレーパークや支援センターのような県内から、そこか目的で遊びに来てくれるような、目玉となる遊び場やお年寄りにもやさしい場所があるといいなと思います	賛同	いただいたご意見は、本計画への期待ととらえ、市内のこどもから高齢者の方々だけでなく、地域外の方々からも喜ばれる場所となるよう、引き続き運営等の検討を進めてまいります。

（2）今後の参考とさせていただいたもの

No	いただいたご意見	分類	ご意見に対する市の考え方
	地域共創プレーパークは、単なる「公園」ではなく、子どもたちの創造性や出会いを生み出す場所であるべきだと考えます。 プレーパークの整備を「場所づくり」だけで終わらせず、移動手段や参加の仕組みも含めた総合的な取り組みとして進めていただきたいと思います。また、子どもたちが地域を超えて出会い、共に遊び、成長していく場が増えることは、将来の鶴岡を支える人と人とのつながりを育てることにもつながると考えます。		

	そのために、次の２点がとても大切と考えます		
1	【意見１】移動手段の確保と仕組みづくり プレーパークを整備するだけでなく、子どもたちがそこへ行ける仕組みも一緒に考える必要があります。例えば、地域バスや送迎体制の活用、学校や地域と連携した移動支援などが考えられます。移動の課題に目を向けることで、より多くの子どもが参加できるようになります。	参考	市としても、移動手段の確保は重要であると考えており、子どもから高齢者まで、近隣地域だけでなく市内各地域からも多くの人が訪れやすくなるように、市内循環バスの停車場所の設置を検討することとしております。 いただいたご意見を参考にし、本拠点整備を場所づくりだけで終わらせず、人と人、人と地域がつながる場所となるよう、移動手段や参加の仕組みも含めて検討してまいります。
2	【意見２】参加のきっかけをつくる仕掛け 「自由参加」だけではなかなか人が集まりません。学校行事や地域イベントと連動させるなど、自然と足を運びたくなる工夫があると、子どもたちの交流が続いていきます。最初は“参加するきっかけ”をつくることが大切と考えます。	参考	市としても、参加のきっかけづくりは重要であると考えており、施設コンセプトに「多様な世代が参加できる活動の創出」を掲げ、誰でも参加できる講座やイベントの実施、大人とこどもが共に活動する仕組みづくり等に取組むこととしております。 いただいたご意見を参考にし、本拠点整備を場所づくりだけで終わらせず、人と人、人と地域がつながる場所となるよう、移動手段や参加の仕組みも含めて検討してまいります。
	計画の中で、「旧朝暘第二小学校跡地の活用」は少子化対策の一部になると紹介されていますが、鶴岡市の世帯の負担を減らせる方法は予定されていない限りでは、効果がとても限定的だと思われます。 本計画案では、「交流」という言葉が38回、「遊ぶ」が9回使用されており、多世代交流や居場所づくりに重点が置かれていることが読み取れます。一方で、少子化の主要因の一つである「保護者の負担」や「育児負担軽減」といった視点や表現は確認できませんでした。		

	本計画は少子化対策の一部として位置付けられていますが、交流機能の整備のみでは、共働き世帯が直面している現実的な負担軽減には直結しにくいのではないかと感じます。山形県は共働き率全国2位、働く母親の割合も全国2位とされています。晩婚化の進行により祖父母の支援を受けられない世帯も増え、両親のみで育児を担う家庭が多いのが現状です。その結果、時間的・精神的・経済的負担が大きくなっています。この負担が軽減されない限り、「もう一人子どもを」と考えることは難しいのではないでしょうか。 具体例として、長年鶴岡で民間ベビーシッター施設を運営していた「ばあばままキッズ」が閉所し、地域の受け皿はさらに減少しました。全国マッチングサービス「Kidsline」で確認すると、市内で現役で活動しているシッターは1名のみで、その方の口コミは450件以上に達しています。これは高いニーズの存在と供給不足を示していると考えられます。 他自治体では公的支援による低額の一時預かりサービスが提供されています。仙台市の「のびすく」では1時間数百円程度、天童市の「げんキッズ」では1時間620円から利用可能です。一方で、鶴岡市では市営の低額ベビーシッティング制度は整備されておらず、民間サービスも高額かつ予約困難な状況です。 また、鶴岡市には一時保育施設が17か所ありますが、その全てが未登園児を対象としており、既に保育園等に通っている子どもを持つ共働き世帯にとっては利用が不可能という現状です。		
3	【意見１】鶴岡市には一時保育施設について、既に保育園等に通っている子どもを持つ共働き世帯にとっては利用が不可能のため、現在の共働き家庭が時間的・精神的・経済的負担が大きくなっている状況との整合性を改めて検討していただきたいと思います。	参考	本市では、保育所等の他に、一時的にこどもを預かるサービスである「ファミリー・サポート・センター事業」や「ショートステイ」等を実施しております。 しかし、核家族、共働き世帯が増加しており、子育て世代の育児や仕事による心身の負担が増加している

			状況において、多様な保育ニーズに十分なご対応ができていないと認識しております。 　いただいたご意見は、子育てに係る負担軽減施策の検討の参考にさせていただきます。
4	【意見２】「交流」や「集う」といった理念も重要ですが、それと同時に、保護者が物理的に休息できる仕組みを整えることが、より実効性のある少子化対策につながると考えます。本計画の中に、「市営定額ベビーシッター制度の導入検討」など、保護者の具体的な負担軽減策を明確に位置付けていただくことを提案いたします。	参考	少子化は、多様な要因に基づくものであり、いただいたご意見の「保護者の負担」「育児の負担」も要因の一つと考えております。 　また、本市では、若者が他地域へ流出していることも人口減少、少子化の主な要因の一つとして考えており、本計画は、この若者の流出対策の一つとして「多世代交流」「地域コミュニティ活性化」をテーマとして策定するものです。 　保護者の時間的・精神的・経済的な負担軽減策については、本市に求められている子育てに関するニーズや課題への対応、また、こどもが抱える課題等を解消する取組を総合的かつ計画的に推進するために策定した「つるおかし こどもプラン」において位置付けしており、いただきましたご意見を参考に、具体的な施策や事業の検討を進めてまいります。
5	２月に行われた学校運営協議会において、市より、第二学区学童の朝二小への移転についてお話がありました。私個人として、第二学区新コミセン建設準備委員としても活動しており、新コミセン建設・プレーパーク設置についても微力ながら協力しておりましたが、建設工事終了後も朝二小で学童を継続することについて、今まで何の話もなくいきなり市側より話があったことに、とても憤りを感じております。 　そもそも学童移転は中央児童館の改修工事期間中のみと聞いておりまし	参考	第二学区学童保育所の学校への移転については、近年の猛暑による熱中症の危険やクマの出没等、学校から中央児童館までの通所時の児童の安全確保が課題となっていたことから、継続実施を検討することとしたものです。 　学校施設の活用に関しては、昨年末こども家庭庁と文部科学省が連名で「放課後児童対策パッケージ

	た。国より方針が出ているとのことですが、学校施設等の既存施設の活用においては、空き教室などの活用を示しているのではないのでしょうか？ 学童の移転候補先であるランチルームは、、授業や夜間のPTAの会議、児童の作品展示や保護者の集まり、気候等の配慮時の児童集会など多岐にわたり活用している状況です。市より時間で使用者を区切るとの話もありましたが、とても現実的ではないと感じました。 また、ご承知と存じますが、ランチルームの隣には特殊学級の教室があり、鶴岡市内一円より児童が通ってきます。外部からの刺激などに過敏に反応する子もいると思いますが、その部分につきましては十分ご検討いただいているのでしょうか？教育を掲げている当市ですので、賢明なご判断をいただければと思います。 また、協議会の委員より「5小は学校敷地内に学童があり好評を得ている」とお話がありましたが、それは最初からそういう計画で建設したからであって、移転について納得を得られる話ではないと感じました。 今まで通り児童館内に学童を設置するか、児童の交通事故等に配慮するのであれば学校グランド等敷地内に建設していただきたいと強く望みます。何卒ご検討いただきますようお願い申し上げます。		2026」を発表し、その中で「放課後児童クラブの整備に当たっては学校施設等の既存施設の活用を一層推進することを基本とする。」との方針を示しており、本市においても国の方針に則り、今後の放課後児童クラブ整備にあたっては、学校施設等既存施設の活用を基本に検討していく方針といたしました。 ランチルームを移転候補先とした理由としては、昇降口の隣に位置しており、学校活動との管理区分を区切るのが容易であること、充分な広さがあること等があげられます。ことばの教室については、シャッターを設置するなど刺激等に配慮することを検討します。 学童の学校への移転は、児童の安全確保を最優先に、市の方針に基づき学校施設の利用を検討しているもので、学校施設の活用にあたっては、学校活動の支障になることのないよう、運用方法について学校と十分に調整を図るとともに、学童保育実施のために必要な機能を整備し、児童の保育環境を整える必要があります。いただいたご意見を踏まえ、学童の保護者等の関係者とも協議を行ってまいります。
6	コミセン会議室のうち、会議室５を畳が設置できる構造として、壁面の片側に鏡を設置するのが適切かと思います。	参考	いただいたご意見を参考にし、今後の実施設計において検討してまいります。
7	多目的軽スポーツホールのステージは利用頻度の関係もあり、常設よりは移動式ステージが良いと思いますが、ホールの大きさとのバランスも考慮して、移動式ステージ9台で幅7.2m×奥行3.6m程度を確保するのがよいのではないかと思います。ただし、移動式ステージ9台と幕板等の附属備品が倉庫２に全部収納可能か試算いただく必要があろうかと思います。ま	参考	いただいたご意見を参考にし、今後の実施設計において検討してまいります。

	た、ステージの高さも現状の高さを基準としてどの高さが最適なのか、高さにより移動式ステージの価格も異なると思うので、総合的に判断いただきたいと思います。		
8	基本構想にあった主に福祉関係の相談窓口ですが、個人的には大山コミセンに整備されている受付待合のようなスペースがあれば可能なのかと思いますが、プライバシー保護の観点や事務所の使い勝手、社協との役割分担などの課題もあり、現実的に厳しかったものと理解しています。 ただし、現実的に高齢者・一人暮らし世帯の増加等を見れば、社協や地域包括支援センターの社会的な認知度が以前より増しているとはいえ、気軽に相談できる窓口の需要は高まっていると思います。かたや中央児童館の整備にあたっても学童保育所が朝二小に移管される方針もあり、中央児童館に余力が生まれるのではないかと思います。中央児童館の名称も変更されるように伺っていますので、中央児童館に設置することも選択肢としてありかと思います。今回の基本計画には盛り込まれなくとも、運営開始までにはどういう形にするのか検討いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。	参考	基本構想では地域包括支援センターの職員が常駐することを想定しておりましたが、相談の多くは連絡を受けて困っている方を訪問するスタイルであること、また、現状の地域包括支援センターの多くが訪問介護やケアマネジャー事業所と同一施設にあることの利便性、困りごとの相談先の身近さとプライバシーの相反関係などを改めて総合的に勘案した結果、現状の地域包括支援センターによる相談支援が望ましいと判断し、本計画案には盛り込まなかったものです。 引き続き、現在の地域包括支援センターにおける相談機能のさらなる強化を図ってまいります。
9	第１章の１「計画策定の趣旨」８～10行目に「…子育て中の多くの保護者から…公園遊具の整備…を求める声が多くあり…」とありますが、遊具を設置しない「プレーパーク」を整備するという事はこの市民の声に（少なくともこの基本計画では）応えていないという事ではないでしょうか。	参考	本市に対し子育て中の多くの保護者から、天候を気にせず遊べる大型の屋内遊戯施設や公園遊具の整備、こどもから高齢者まで多世代が交流できる場の充実等を求める声が多くよせられていました。また、市街地だけでなく、身近なところに気軽に遊びに行ける遊び場の整備を求める声もありました。 こうしたことを受け、令和６年度に鶴岡市こどもの遊び場に関する協議会を立ち上げ、様々な意見を頂戴し、令和７年３月に本市の遊び場整備の方針である「遊びに本気宣言！」を策定いたしました。

			「遊びに本気宣言！」では、全ての地域に同じ遊び場を整備するのではなく、地域資源を活用しながら多様な遊び場を様々な場所に整備していくことにしており、プレーパークも整備する遊び場の一つとしております。 プレーパークは、単なるこどもの遊び場としてではなく、地域のこどもから高齢者までが集う、“コミュニティ”でもあります。 地域の方が集うコミセン移転と、世代間交流と親和性が高い遊び場であるプレーパーク整備を同一敷地内で行うと、より魅力的な地域となると考え計画いたしました。 また、令和７年に「みんなが行きたいプレーパーク（屋外遊び場）について考えよう」をテーマに開催した“こども会議”において、こども委員から“でっかいブランコ”や“アスレチック”など、既存の公園の既成遊具にはない、ダイナミックな遊びを求める意見がありました。全国のプレーパークでは、こどもたちとプレーリーダー、地域の大人が協力してアスレチックなどの遊具を作成しているプレーパークが多くあります。 こうした手作り遊具については、供用開始後に、こどもの意見を聴きながら、運営上の課題や安全面を考慮し、実現していきたいと考えております。
10	第２章の４の「コンセプト５」に「相談機能…子育てや生活等に関する相談体制の整備」とありますが、第３章以下の計画に基本構想にあった主に福祉に関する相談機能が反映されるものがないように見受けられます。	参考	基本構想では地域包括支援センターの職員が常駐することを想定しておりましたが、相談の多くは連絡を受けて困っている方を訪問するスタイルであること、また、現状の地域包括支援センターの多くが訪問介護

			やケアマネジャー事業所と同一施設にあることの利便性、困りごとの相談先の身近さとプライバシーの相反関係などを改めて総合的に勘案した結果、現状の地域包括支援センターによる相談支援が望ましいと判断し、本計画案には盛り込まなかったものです。
11	第3章の1「（仮称）地域活動ゾーン」に新コミセンと屋内遊び場施設（現児童館）が入ることになるようですが、であれば別棟でなく（にこ♡ふると第三コミセンのように）合築とした方が色々と効率的ではないでしょうか。同章の２（１）では新コミセンと屋内遊び場施設の間に大屋根を架けるという計画ですが、積雪に耐えられるものでしょうか。前述したように合築であればこれは必要なくなります。	参考	基本構想の策定にあたり、両施設を合築する複合施設の検討も行いましたが、複合化により施設規模が大きくなることで建設費用、維持管理費用が増大することや、ワークショップにおいても両施設の間の空間を交流や連携が図られる場所にしたいという意見を踏まえて、別棟で計画しております。 新コミセンと屋内遊び場施設をつなぐ大屋根については、積雪にも耐えうるものを整備する計画です。
12	第４章の３（３）に「…スロープから最短距離で建物に入れるように…」とありますが、図面と照合してみると出入口が北向きになっているためスロープを上ったら180°向きを変えなければならず、足の不自由な方や車椅子の方にとっては大変不便かと思います。出入口は東向きとし、駐車場から真っ直ぐ入れるようにしていただきたいです。あえて北向きにしているのは屋内遊び場施設との行き来に配慮したという意図と思われ、前述したように合築であればこの点も解消できます。	参考	スロープと建物出入口の向きについては、いただいたご意見を参考にし、今後の実施設計において検討してまいります。
13	第５章の３（１）※に「…朝暘第二小学校において継続した実施の検討…」とありますが、ぜひ、放課後児童クラブ利用の当事者である児童保護者、および施設管理者である社会福祉協議会職員と朝暘第二小学校職員の意見を十分に聴きながら検討していただきたいです。	参考	学童の学校への移転は、児童の安全確保を最優先に、市の方針に基づき学校施設の利用を検討しているものです。いただいたご意見を踏まえ、学童の保護者、学校、学童の運営者等の関係者との調整、協議を行ってまいります。

14	同章の３（４）に「…既存の樹木は…老朽化が進んでいるものもあるため…保存や撤去等について適切に判断…」とありますが、本計画の核となっている（と思われる）プラタナスについて、特に適切に（プラタナスありきで強引に進める事のないよう）ご判断願います。	参考	プラタナス等の既存の樹木については、令和8年度以降、調査を行い、保存や撤去等について適切に判断していく予定です。調査の結果を今後の実施設計に反映しながら検討してまいります。
15	第６章「管理運営計画」はまだ「計画」と言える程煮詰まっていないように見受けられます。	参考	ご指摘を踏まえ、管理運営の方針をもとに、今後、より具体的に検討してまいります。
16	この計画では触れられていませんが、これだけの大事業となりますと、完成のあかつきには相当、交通の流れが変わってくるものと思います。周辺道路の再整備につきましても追々ご検討くださるようお願いします。	参考	いただいたご意見を参考にし、本拠点整備後の交通状況を踏まえ、必要な整備を検討してまいります。
17	施設の維持管理についてです。敷地規模が大きく、駐車場も広いことから、特に冬季の除雪費用などの維持コストがどの程度想定されているのかが気になりました。人口減少が進む中で、長期的に持続可能な運営体制をどのように構築するのかについて、できるだけ具体的に示していただけると安心感があると感じます。	参考	人口減少が進む中で、施設の維持管理費や長期的に持続可能な運営体制を構築することは非常に重要な課題であると考えております。今後の実施設計においても維持管理費の縮減を念頭に置いて検討を行うとともに、管理運営体制についても今後より具体的に検討してまいります。
18	施設の運営主体についても関心があります。イベントやプレーパークなど、継続的な運営が必要な機能が多く計画されているため、市直営なのか、指定管理なのか、地域団体等との連携なのかなど、どのような体制を想定しているのかを明確にしていただけるとよいと思います。	参考	コミュニティセンターは指定管理者制度による管理運営、プレーパークは指定管理者制度または委託事業による管理運営を検討する方針としており、今後、より具体的に検討してまいります。
19	立地が住宅地の中にあることを踏まえた配慮についてです。イベントやフェス等で音楽を流す場合など、騒音に関する近隣への影響が懸念される可能性があります。地域住民とのトラブルを防ぐためにも、音量や開催時間などについて一定のルールを設けるなど、事前の配慮を検討していただければと思います。	参考	本拠点整備により、施設利用対象者の幅が広がり、今までになかった利用や運用への対応が必要になると考えております。住宅地の中への立地ということを踏まえ、特に屋外部分の使い方のルールづくり等、今後、具体的に検討してまいります。
20	現在この場所にある学童保育の移設については、地域の利用者にとって影響が大きい事項であり、賛否もあると思われます。利用している家庭や	参考	学童の学校への移転は、児童の安全確保を最優先に、市の方針に基づき学校施設の利用を検討している

	地域の声を十分に聞きながら、慎重に検討していただくことを希望します。		ものです。いただいたご意見を踏まえ、学童の保護者、学校、学童の運営者等の関係者との調整、協議を行ってまいります。
21	この地域には徒歩圏内に日常的な買い物ができる店舗がほとんどなく、飲み物や軽食、子育てに必要な日用品などを気軽に購入できる場所が少ない状況です。施設を多くの人に利用してもらうためには、飲み物や軽食のほか、おむつやミルクの少量パック、学用品、子どもが利用しやすい駄菓子などを購入できる環境があると利便性が高まるのではないかと感じました。 ただし、施設内に売店を設ける場合は管理や運営の負担も生じると思われます。近隣にはスーパーの跡地など既存の商業スペースもあることから、周辺事業者と連携し、地域の店舗が出店できるような環境づくりを検討していただけると、施設利用者の利便性向上と地域のにぎわいづくりの双方につながるのではないかと思います。	参考	本拠点整備による効果が近隣空き店舗の活用等の民間投資につながり、周辺環境の向上や利便性が高まるように計画の周知・ＰＲに努めてまいります。
22	子どもの利用が多い施設になることが想定されるため、駐車場の出入りや車の動線と歩行者の動線が交錯しないよう、安全面への配慮も十分に検討していただければと思います。特にイベント時など利用者が増える際の交通整理や安全対策についても、あらかじめ想定しておくことが重要ではないかと感じました。 地域の魅力を高める施設となることを期待しています。今後の検討の参考にしていただければ幸いです。	参考	いただいたご意見を参考にし、今後の実施設計において、車や歩行者の動線や安全面、イベント時の管理運営も想定して、駐車場の検討を進めてまいります。
23	公共施設について 2016 年から「施設類型別基本方針」の前期が終了するタイミングですが、10 年前の生活基準やコロナ禍以降の生活行動が大きく変わり当初の計画通り行かない事が多くあると感じます。 現在の施設は「利用が出来るが老朽化を感じる」ではなく、利用出来る環境ではない状態で利用案内を出している事がそもそも現状の把握が出来ていない(しない、見て見ぬふり)状態で指定管理団体と行政の間で責任を曖昧	参考	いただいたご意見を参考にして、公共施設等の適切な管理に努めてまいります。

	にしていると思います。(そう見えます) 　指定管理団体が現状の改善や施設運用が出来ない施設に関しては市が建物も整備(一部などでも)をし民間企業や地域へ貸出や譲渡が出来るようにして、地域資源の有効活用を官民協働で行い地域活性化、若者支援(多世代交流)、地域創生へつなぐ取組をする場所として提供してもらえる仕組み(事業化)を取り入れていただきたい。 　※このまま放置してしまうとリサイクル利用出来る施設も5年で廃墟化してしまうと思います。 　市議会でも話しがあったが、施設利用者が減っているのではなく、利用出来ない状態の管理体制になっている事も問題だと思います。管理団体として利用率の高い施設に目がいきがちで各施設の利用方法を模索して利用率を上げる方法が見つからない施設を指定管理団体に管理をしてもらう意味があるのかも疑問です。(現状放置している為、価値ある施設が廃墟になる) 　地域に必要な施設にしていく事も指定管理団体の役目かと思います。 　10年20年同じ管理方法を現状維持で続けて5年後の鶴岡市に魅力を作る事が出来るのでしょうか？ 　魅力や使いたい施設を作ろうと努力をしていかないと、鶴岡の魅力を見つける事も地域に必要な施設になる事もできないと思います。 　施設を稼働させましょう！ また、「鶴岡市まち･ひと･しごと」として2020年～24年で「創生総合戦略」がありましたが、地域の生活にストーリー性を持たせ地域資源を大切にしながら地域活性化、地域貢献、多世代交流、人材育成、地域の魅力PR(観光)、地域愛を育成して、住みたい「まち」、住み続けたい、住み続けられる「まち」づくりをしていきたいと考えています。		
24	朝暘第二小学校の学童保育施設の移転により子育て拠点施設としてのプレーパーク事業も今後の動向を見ながら未来ある子どもたちの成長の	参考	こどもにとっても、地域の大人にとっても魅力的な場所となるよう、今後も地域の方や関係者等と協

	ため、それに関わる大人たちの見守り方、連携の仕方をこれから模索していきたいと思います。		議をしながら、プレーパークや屋外施設の管理、運営等の検討を進めてまいります。
25	旧朝暘第二小学校跡地を活用した新たな拠点づくりという事で大変楽しみにしております。 このような施設や機能を設けてほしいという要望ではなく周知についてご意見をお伝えできればと思います。この計画を一般市民の方がどれほど知っているか、また知るすべがあるかなどを精査した方がいいのではないでしょうか。このような施設が充実されることで鶴岡で子育てを検討する方が増えたり、UIターンしてみたい、そんな方が周知の方法次第で変わると思います。今現在のコミュニティセンター利用状況と比較して、竣工後にはどのくらいの利用率を目指すのかなど明確な数値目標が必要ではないかと考えます。	参考	いただいたご意見を参考に、本拠点の整備により、鶴岡で子育てをしたい、UIターンしたいと思う人が増えるなどの整備効果が図られるよう、本計画の効果的な周知方法を検討してまいります。 また、数値目標については、計画の進捗や達成度を把握できるなど、計画の効果の確認や見直しに必要と考えております。本計画はコミュニティセンターとプレーパークからなる新しい形の拠点整備であり、利用者層の拡大や利用形態の多様化により、利用者数の増加等が期待されますので、今後、こうした整備効果を測る数値目標を検討していきたいと考えております。
26	いつも思うのですが、これで少子化、出生率の向上につながると本気で思っているのか不思議でならないのです。 私は昭和・平成・令和と育児をしてきて現在も育児中（３歳と２歳）なので、核家族化が進む中で、また不景気の中で子育ての環境が全く変わってきていることをリアルに体験しています。 この計画（案）も魅力的かと言われたら魅力的な構想だとは思うのですが、図書館建設と同様に、人口減少が加速している今の鶴岡市が優先的に取り組むべきことなのか疑問でしかありません。 共働きをしながら子育てをしていく大変さ、その問題を市はしっかりと把握できているのでしょうか？ 遊び場があれば子供が増えるのですか？ 集う場があれば人口が増えるのですか？ 中央児童館だけでなく、藤島など今ある児童館の修繕は十分にされている	参考	少子化は、多様な要因に基づくものであり、いただいたご意見の「養育の負担」も、要因の一つと考えております。 また、本市では、若者が他地域へ流出していることも人口減少、少子化の主な要因の一つとして考えており、本計画は、この若者の流出対策の一つとして「多世代交流」「地域コミュニティ活性化」をテーマとして策定するものです。 養育の負担軽減策については、本市に求められている子育てに関するニーズや課題への対応、また、こどもが抱える課題等を解消する取組を総合的かつ計画的に推進するために策定した「つるおかし こどもプラン」において位置付けしており、現在は、令和８年９月から、

	のでしょうか？ 日々の生活の中での養育の負担軽減をしない限り、少子化が改善されることはないでしょう。私のジムに通っている若い人たちからは子どもを持つことの不安と負担をよく耳にします。問題の本質が見えない限り物事は改善しません。なぜこうなったのか、今何を優先的にするべきなのかを再考いただくことを願います。		0～2歳児の保育料無償化の検討を進めております。 いただきましたご意見を参考に、今後も具体的な施策や事業の検討を進めてまいります。
27	こども達や地域の方々が、図書や郷土資料など多様なメディアを活用しながら協働的な学習を展開できるラーニングセンター機能を設け、学習等を通じて多世代の交流が自然に生まれる環境整備が必要と考えます。	参考	市としても、多世代の交流が自然に生まれる環境整備は重要であると考えており、施設コンセプトに「多様な世代が参加できる活動の創出」を掲げ、誰でも参加できる講座やイベントの実施、大人とこどもが共に活動する仕組みづくり等に取組むこととしております。 いただいたご意見を参考にし、様々な活動を通じて、多世代の交流が生まれる場所となるよう、検討してまいります。
28	私は東京都から鶴岡市に移住しました。東京都練馬区でプレーパークの立ち上げに関わっておりその縁で、世田谷区のプレーパークでもボランティアスタッフをしていたことがあります。当時は他に新宿、杉並区などいくつものプレーパークにお邪魔しておりましたし、プレーリーダー養成講座も受講しておりました。 私自身はその後、就職したためプレーパークと関わることはほとんどありませんでしたが、いつか移住先である鶴岡でプレーパークを作れたらと考えておりました。 当時、プレーパークの立ち上げはまず世話人と呼ばれる地元の保護者で、実験的に不定期に開催し、その後行政の協力を得て、常設となっていくというのが通常だったため行政が計画されていることに驚いております。一個人の集団がプレーパークを作るのはとても大変で、火の使用許可、水の使用許	参考	本市は、子育て環境向上の取組の一つとして、遊び場の検討を行い、こども基本法に基づき令和7年3月に策定した「つるおかし こどもプラン」において、主要施策の一つに「遊び場づくりの推進」を掲げました。また、遊び場整備方針（遊びに本気宣言！）も策定し、本市が推進する遊び場の一つとしてプレーパークを計画し、その具体的な整備計画として、本基本計画を策定したものです。 プレーパーク整備計画を検討するにあたり、プレーパークづくりの支援を行っている団体や、実際にプレーパークを運営している団体から指導やアドバイスを受け検討を進めておりますが、いただいたご意見と同様に

	可、穴を掘って良い許可を公園の管理事務所にとり、その中で運営していましたが、通報されることもしょっちゅうで、プレーパークにパトカーが来ているということも当時は良くありました。地域の子どもが学校を休んでプレーパークに来たらどうするのか、子ども同士、保護者、近隣住民とのトラブルにどう対応するのか、子どもの遊びに大人がどこまで介入するのか、多くのプレーパークでは、その中で起きていることを地元住人である世話人が対話の中で解決しています。 鶴岡にプレーパークを作る場合、その辺りのコンセンサスをどのようにとっていくのかという点が気になっておりました。 プレーパークを作るという場合、単にプレーリーダーのいるアスレチック広場を作るのでは無く、遊びを中心にした地域コミュニティを作るということになります。遊びの主体は子どもであり、プレーリーダーも遊びの幅を広げ、遊びを見守る存在であり、あくまで「自分の責任で自由に遊ぶ」場となります。 昨年のパブリックコメントや市の資料を見ていて、その辺りが市民の方々に伝わっていないのではないかと強く感じました。 プレーリーダーに子どもを預けられるのであれば…という意見を見かけましたが、「自分の責任で」という場なので、親が責任を持って自分の子どもを見守ること、あるいは子ども自身が子どもたちだけで遊びに行く場となります。 鶴岡にプレーパークを作る場合、それがどういうものなのかを市民の方々に知って貰い、地域の中で認知頂くことが重要かと感じました。例えばですが、プレーパークの準備会を立ち上げ、その中で地域の保護者や興味ある方々に入って頂き議論を進めることは可能でしょうか。 既に計画が進んでいる状態かと思いますが、魅力的なプレーパークを作れれば、それを目的とした若年世帯の移住が増える可能性も考えられます。		「プレーパークを市民の方々に知って貰い、地域の中で認知頂くこと」が本市の課題の一つであり、今後取り組むべきこととなっています。 そのため、令和８年度は、プレーパーク設立準備として、地域の方々とともにプレーパークの管理運営について検討を行う事業を予定しております。

	私、個人としても今後子育てをしていく鶴岡市で、世田谷区のような赤ちゃんからお年寄りまでが関わり合い日々を過ごしていくプレーパークを作ることに関われたらと思っておりますのでご連絡させて頂きました。 2026年度の議論も見守っていきますし、議論に参加できる場があれば積極的に参加したいと考えておりますので宜しくお願い致します。		
29	日頃より本プロジェクトへの多大なる尽力に敬意を表します。この度の基本計画（案）を拝見し、多世代交流と地域課題解決が一体となった「戦略的拠点」としての姿に深く共感いたしました。その上で、持続可能な全市的な発展の観点から、以下の意見を述べさせていただきます。 1. 懸念事項：市内格差の拡大と子育て世代の流出（ストロー現象）のリスク中心市街地への高機能な施設整備は、大きな魅力となる一方、郊外・超郊外地域（人口密度 50 人/k ㎡以下）との「体験・環境格差」を顕在化させる恐れがあります。これが要因となり、同市内での人口移動（郊外から中心部へ）が加速し、結果として超郊外地域における子育て世代の流出を助長する「ストロー現象」を招くことを懸念しています。 特に超郊外地域において、これ以上少子高齢化による次世代の担い手不足が加速すれば、今の社会構造は崩壊し、鶴岡の最大の魅力である「自然・文化・暮らしの継承」そのものが困難になるという、市全体にとって極めて深刻な事態を招きかねません。 2. 対策案：超郊外の資源を活かした「分散型・探究重視プレーパーク」の同時展開 中心拠点（ハード）の整備と並行し、超郊外地域において「その土地の自然・文化・暮らし」をフィールドとした探究重視のプレーパークを戦略的に展開することを提案します。 運用の工夫： 既に地域で活動する NPO 法人や地域団体へ運営を委託し、現場の知恵と活力を最大限に活かしながらコストを抑制する。	参考	本市の遊び場整備の方針を示した「遊びに本気宣言！（令和 7 年 3 月策定）」において、全ての地域に同じ遊び場を整備するのではなく、地域資源を活用しながら多様な遊び場を整備していくことにしております。 整備するプレーパークは本計画のみではなく、今後も各地域へ計画的に整備していきたいと考えており、いただいたご意見は、今後検討する様々な遊び場整備や、遊びの価値を伝える人材の活用と養成の参考にさせていただきます。

	本施設の役割：跡地施設はこれら広域の活動を統括・管理する事務局機能を持ち、プレーリーダー等の「人材育成ハブ」として機能させる。これにより、市内全域の「遊びの質」を底上げする。 3. 期待される効果：双方向の循環による多様性と社会的経験の担保 この「中央（拠点）×周辺（フィールド)」の連携により、市内格差を緩和するだけでなく、超郊外地域独自の価値（求心力）が生まれます。 市街地の子どもが超郊外へ、超郊外の子どもが市街地へという「双方向の循環」が生まれることで、子どもの数が少ない地域で課題となる「多様性の欠如」や「社会的経験の不足」が解消され、全市的な子どもの育ちの質が向上すると考えます。		
30	コミュニティ・子育て拠点整備基本計画、特にコミセン移転新築について僭越ながら申し上げます。 新コミセンについては、年代を問わず色々な方々から利用してもらう施設ということで設計が進められているようですが、現設計では道路側からは内部の様子は見えず、新しい利用者を引き込めないのではないかと心配しています。利用している様子(特にホワイエ)を視覚的に認識してもらうのは重要ではないでしょうか。イベント開催も同様で、プレーパーク側で行えば通行人からは見えず、コミセン事業を知らない方が参加しにくく、集客に影響を与えるのではないかと考えます。会議室とホワイエの位置を逆転させ、イベント時や災害避難時には開閉できるガラス戸にし、夏まつりは駐車場側で開催するようにできないでしょうか。キッチンカーも駐車場側で営業出来るようにします。そうすることで、賑わいの様子も見え、当初の目的の一つ調理室から直接食べ物の提供も出来ます。	参考	新コミュニティセンターの基本計画及び基本設計については、ワークショップでいただいた意見を踏まえ、施設への入りやすさ、交流や連携のしやすさ、それを生み出す敷地全体の活用を方針として、新しい利用者を引き込むことも非常に重要な視点と考え、検討を進めてきたところです。 いただいたご意見は、今後の実施設計の参考にさせていただきます。
31	建物入口は駐車場からまっすぐ入れるようにして、どなたでも入りやすい位置に変更を希望します。児童館利用者との行き来はそこまで考慮する必要はないのではないでしょうか。	参考	いただいた意見を参考にして、今後の実施設計において検討してまいります。

32	ホワイエの多目的ホール側は事務室から目が届かないため、幅を狭め廊下にしてはどうでしょうか。	参考	ホワイエは、ホール前での滞留できるスペースや気軽に利用できるスペースとして必要なスペースと考えております。いただいたご意見を参考にして、今後の実施設計において検討してまいります。
33	給湯室、洗濯室は管理しやすいように事務室一角に扉を付け設置することのご検討をお願いいたします。	参考	いただいたご意見を参考にして、今後の実施設計において検討してまいります。
34	ステージと畳を収納式にすることについて、出し入れを誰がするのかを考えた場合無理があるのではないでしょうか。	参考	移動式ステージや畳等の用具の出し入れについては、原則、利用者が行うものと考えておりますが、いただいたご意見を参考にし、出し入れしやすい用具の選定やその運用面について検討してまいります。
35	多世代が利用するとは言え子どもや若い世代がいきなり増えるわけではなく、やはり暫くは利用者の多くは高齢の方中心になると思われます(ホワイエは別としても…)。常時畳敷きの部屋が必要と考えます。文化祭での茶道体験の継続開催やサークルで着物の着付けなど畳でなければならない利用の仕方もあります。それに伴い入口付近に設置予定の小上がりは無くし、代わりに町内会連絡用ポストの設置を希望します。	参考	これまでもワークショップ等で地域の皆様の意見をいただきながら、また、利用状況もお聞きしながら検討してまいりました。いただいたご意見を参考にして、今後も実施設計において検討してまいります。
36	倉庫裏の車停め用の場所も引っ込み部分をまっすぐにすれば倉庫の収納面積も増やせるのではないでしょうか。建物の凹凸は出来るだけ無くし、フラットに出来ないものでしょうか。	参考	施設規模については、必要空間を十分に確保しながら、合理的でコンパクトな計画となるよう延床面積1,000㎡未満に抑え、限られた予算の中で満足度の高い施設を目指しています。いただいたご意見は、今後の実施設計の参考にさせていただきます。
37	災害時に万が一取り残された方が屋上に避難した場合、例え一時的とは言え風雨を避ける為の屋根なりの簡易的な建築物は必要と考えます。 予算、工期、様々な制約がある中で全ての要望が叶わない事は重々承知しておりますが、地元住民の考え、利用実態に即した、(飾り過ぎず盛込み過ぎない)簡素で使い勝手の良い施設になる事を第二学区の一住民として願って	参考	いただいたご意見を参考にし、今後の実施設計において検討してまいります。

	おります。		
38	多世代交流を掲げる本計画において、空間を「交流の場」として真に機能させるための「仕組み」の観点から意見を述べさせていただきます。 1. 課題：空間整備だけでは解決しない「交流の壁」 多世代が同じ空間に集う設計は素晴らしいですが、単に場を共有するだけでは自発的な交流は生まれにくいのが実情です。高齢者と子ども、あるいは現役世代が自然に混ざり合うには、心理的な壁を取り払う「役割」と「仕掛け」が不可欠です。 2. 提案：「双方向の先生（教え合い)」による絆づくりの仕組み 互いの得意分野を交換し合う「双方向のギブ&テイク」を拠点の運営指針に組み込むことを提案します。 知恵の伝承： 高齢者が「手仕事の先生（竹細工、料理、編み物等)」となり、子どもたちに文化や技術を伝える。 スキルの還元： 代わりに子どもや若者が「デジタルの先生」となり、高齢者にLINEの使い方やスマートフォンの活用を教える。 このように「双方向の敬意」が生まれる仕掛けをソフト事業として継続的に配置することで、単なる利用者同士を超えた、ご近所付き合いのような深い絆が生まれます。 3. デジタル×アナログの互助展開 この拠点を、互助システムのリアルな接点として活用します。 情報の可視化： LINEを覚えた高齢者が「今日は〇〇（工作等）をしに拠点へ行く」と事前に発信し、それを見た子どもたちが集まる、という自律的なマッチングを促す。 安心のインフラ化：拠点での交流で深まった信頼関係をベースに、日常生活におけるちょっとした困りごと（電球交換や見守り等）を助け合える「地域互助のプラットフォーム」へと進化させることが可能です。	参考	市としても交流の場として機能させるための仕組みづくりが重要であると考えております。 いただいたご意見を参考に、ソフト・ハードの両面で一体的な運用ができるよう、今後の実施設計や管理運営の検討を進めてまいります。

	本施設が、単なる「滞在施設」ではなく、多世代が互いに必要とされ、役割を持ち合える「誇りと安心を育む拠点」となるよう、ソフト・ハード両面での一体的な運用を期待します。		
39	30年前、東京で子育てをしていた時、世田谷プレーパークがありました。今回、鶴岡にプレーパークができることはとても嬉しいことです。子育て世代の人たちが「長井くるんと」や「クラッピン寒河江」などへわざわざ出かけていると聞いて、ぜひ鶴岡にもと思っていました。また、他県の孫がお盆や正月に来た時に、ソライ以外に遊び場が少なく苦労しているということです。計画案を読んで、まだわからないことも多いですが、考えたことを書きます。 ①東屋やテラスにテーブルやイスがあるようだが、売店やカフェも欲しい。	参考	売店やカフェの計画はしておりませんが、キッチンカーの乗り入れやイベント時の出店等を計画しております。
40	②敷地の周りは、川に面しているようなので水車を回す水力発電、屋根にはソーラー発電、雨水利用設備、トイレには中水利用など、エコと災害に対応した設備にしてほしい。	参考	コミュニティセンターについては、ZEB Oriented以上の省エネルギーな施設を目指しており、ペレットストーブなどの木質バイオマスの活用も検討しております。いただいたご意見を参考にし、引き続き検討してまいります。
41	③屋内遊具施設の図面が見えにくかったので、計画にあるかもしれないが、授乳室とおむつ替えスペースを作り、ママだけでなくパパも利用しやすいようにしてほしい。	参考	屋内遊び場施設の図面には記載ありませんが、授乳室や幼児用トイレの設置を計画しております。
42	④中高生が利用しやすいように、鶴岡公園付近からプレーパークまで続く自転車専用レーンを作ってほしい。また、プレーパークに至る周囲になるべく自転車レーンを整備してほしい。	参考	本拠点のコンセプトのひとつに「多様な世代の人が集まる拠点」を掲げており、アクセス面も含めて中高生が利用しやすい環境を整えることは重要なことであると考えております。いただいたご意見は、道路管理者である県とも共有し、今後のまちづくりの参考とさせていた

			だきます。
43	⑤他県から来た子どもも自由に利用できるようにしてほしい。	参考	本拠点は、利用者を限定せず、誰でも気軽に利用できる施設として運用することを計画しております。
44	現在の第二コミセン跡地は、どのような利用計画ですか。地域の利用者で和室が欲しいという声もあるそうなので、茶道や着付け、踊りなどができる、平屋の和室の別館があってもよいと思う。	参考	現在の第二コミセン跡地の利用計画は、まだ決まっておりません。民間事業者への貸付または譲渡、市による除却や売却を想定し、今後、有効な利活用方法を検討してまいります。
45	東根のように来る子のやりたいを尊重するプレーパークを希望します。	参考	いただいたご意見のように、こどもの「やってみたい」を叶えることができる遊び場となるよう、今後もプレーパークの管理運営等の検討をしてまいります。
46	素敵なホワイエですが、学生達はほとんど家族の送迎が現状。電車通学の子は学校と逆方向の施設をどのくらい利用すると思うかアンケートをとってほしかったです。地元の方の利用の為にはスクリーンを立ててもらい小人数でまとまれるようにしてもらえると高齢者には利用しやすいと思う。	参考	ホワイエについては、ワークショップで出された意見を踏まえ、利用者を限定せず、誰でも気軽に立ち寄れ、自由に使えるスペースとして計画しています。アンケート調査は行っておりませんが、今までのコミュニティセンターには無かったスペースで、中高生の勉強スペースとしてだけでなく、地域の方々のくつろぎの場、少人数の打合せなどで利用でき、施設の利便性が向上するものと考えております。いただいたご意見を参考にし、より利用しやすいスペースとなるよう検討してまいります。
47	会議室１は和室にして座椅子を収納する押入を作ってほしい。現在活動中の着付やヨガには必須ですし、体調を崩された方々の休憩室として是非考えてほしいです。	参考	いただいたご意見を参考にし、今後の実施設計において検討してまいります。
48	会議室を区切るスライディングウォールも軽く簡易なものにして、高齢者にやさしくしてほしい。	参考	いただいたご意見を参考にし、今後の実施設計において検討してまいります。
49	キッチンスタジオはかなり自由で楽しそうであるけれど、管理責任、衛生管理をかなり厳しくしないといけない。	参考	今後の運用面の検討の参考とさせていただきます。

50	多目的ホールには常設ステージを作り、ステージ下にテーブル、椅子を収納し、ステージ袖にオーディオ関係機材とピアノ、片方の袖に卓球台及び用具の収納をしてほしい。ホールには何もおかず、球技を思いっ切り出来る環境を整えてほしい。	参考	多目的軽スポーツホールのステージについては、広いホールの有効活用の観点から、移動式ステージを計画しておりますが、移動式ステージやホールで利用するテーブルや椅子、音響、ピアノ、卓球台等の用具については、全て倉庫に収納できるように計画しております。
51	プラタナスは残念ながら、負が多すぎます。アメシロ、落ち葉、真剣に考えてほしいです。	参考	プラタナスについては、本拠点の各エリアをつなぐ中心的なエリアと考えております。癒しや遊び、日差し対策として活用し、木陰でくつろいだり、遊んだり、こどもから高齢者まで誰もが集い交流できる場所とする方針です。また、落ち葉については、建物を適切に離し、建物周囲にたまりにくいよう計画しており、落ち葉自体も「落ち葉プール」として、こどもの遊びに活用する等を検討しております。 なお、プラタナス等の既存の樹木については、令和8年度以降、調査を行い、保存や撤去等について適切に判断していく予定です。調査の結果を今後の実施設計に反映しながら検討してまいります。